



連載インタビュー「沖繩を語ろう」の第4回ゲストは、1975年(本土復帰3年後)の第47回選抜高校野球大会で(豊見城旋風)を巻き起こした豊見城高校野球部の主将で、現在、沖繩県早朝野球協会会長を務めている浜川太さんです。嘉手納高校と興南高校が出場する今年の「選抜」を前に、35年前の奮闘、甲子園大会の魅力、両出場校への期待、昔と今の球児たちの比較などを語っていただきました。(敬称略)

35年前の「選抜」で、豊見城は大活躍をしました。初戦は、優勝候補の習志野。その強豪に、ノーマーカーのチームが3対0でシャットアウト勝ちしたのが(豊見城旋風)の始まりでした。続く日大山形戦も4対2で堂々と下し、準々決勝に駒を進めました。そこで待ち受けていたのは、原辰徳選手(現・巨人軍監督)ら好打者がずらりと並ぶ東海大相模。その試合で、豊見城は、9回裏の2死まで1対0で勝っていました。バッテリーは、投手が、後に巨人へ入団する赤嶺賢勇さん。そして捕手は、その日4打数2安打の4番打

者・浜川さんでした。浜川 3番打者の原辰徳選手を3球三振に仕留めて2死にしたとき、スタンドから響いてくるコールが「あと2人!」から「あと1人!」に替わったのを覚えています。ランナーがいまいませんでしたから、「勝った!」と思いました。ところが、4番打者の津末英明選手(後に日本ハム、巨人)が、1ストライク1ボールの後、インコースの真っ直ぐを1塁線へヒット。2塁へ猛然と滑り込んで2死2塁にし、結局、同点、逆転、1対2のサヨナラとなってしまいました。

—そのときの気分は?

浜川 そりゃあ悔しかったんですけど、しょうがないな……という気分です。ベンチへ引き揚げました。「選抜」でしたからね。甲子園大会は「夏」こそ本番……という気分がありました。

### 野球も人生もなめたほうが負け

—ところが、その「夏」の大会に、豊見城は出場できませんでした。浜川 そうなんです。その「夏」で全国制覇したのは、なんと、豊見城

が「選抜」の1回戦で下した習志野でした。その習志野ナインは、「選抜」の組み合わせ抽選会で私が「4番」を引いたとき、「やったあ!」と会場の一角で歓声をあげていました。甲子園球場へ向かう電車でもたま鉢合わせしたときも、こちらを見る表情には余裕がありました。豊見城をなめていたんでしょう。こちらは奮奮したものです。習志野は、「選抜」での思わぬ敗戦で大いに反省し、「夏」の制覇へつなげました。

ともたくさんありましたが、「人生、なめたほうが負け」。これは、私の実感です。沖繩のチームが強いのは少子化の影響も?

35年前の豊見城ナインは、後に(沖水旋風)も巻き起こす裁弘義監督が率いました。裁野球は、どこが新しかったのですか?

浜川 裁監督によって、中京大学野球部が目指していた「大胆細心」の精神が導入されました。「大胆」というのは、パワートレーニングで、筋力を強化して補いました。「細心」というのは、よく考えて緻密な試合をすること。練習量は、どのチームと比べても負ける気がしませんでしたよ。招待試合もよくありましたので、他府県の実力も分かっています。その結果、九州大会で県勢として初めてベスト4に残り、「選抜」出場を果たしたのです(それまでの「選抜」出場は、いわば復帰特別措置)。裁監督からよく「いままでの沖繩のチームは甲子園へ行くのが目的だったがおまえたちは甲子園で勝てるよ!」と励まされたものです。

—「裁野球」以降、「沖繩のチームは強い」と言われるようになりました。実際、今年の「選抜」は、興南と嘉手納

の2校が出場する快挙になりましたね。

浜川 たしかに指導者が充実し、練習環境も整いました。しかし、「沖繩のチームは強い」と言われる背景を冷静に見れば、少子化の影響もあると思います。他府県では、いろいろなスポーツが、少ない子供たちを取り合って、高校野球のレベルが下がっているんです。一方、沖繩は出生率が高いので、相対的に、レベルアップに映る側面があるんです。しかし、そんな沖繩でも、少年野球に参加する子供たちの数が年々減っています。将来が心配ですね。ところで、今年の「選抜」に出場する両チームですが、かなり期待できると思います。興南は、選手たちが甲子園経験を積み、今回は期するところがあるので、はないでしょうか。嘉手納は、選手たちが事実上、小中高一貫で硬式野球をし、全国大会で活躍してきました。両チームとも、大きな大会で慣れれているのが強みです。

—いまの沖繩の高校球児たちを全般的に見渡して、どんな印象を持っていますか? 浜川 恵まれて

# 甲子園大会の魅力は「切符は1枚。負けたら終わり」

～沖繩県早朝野球協会会長・浜川 太さんに聞く

**Profile**

**浜川 太**(はまかわ・ふとし)



優勝旗を渡す浜川会長

那覇市出身。豊見城高校卒業(第8期)。大阪商業大学卒業。浜川食品代表。沖繩県早朝野球協会会長。沖繩県早朝野球大会は、「家庭を持つとか機会を!」という思いと、某タクシー運転手の「一度でいいから奥武山野球場で試合をしてみたい!」というひと言から企画。今年で19年目。参加チーム数は、平均50チーム(一番多い年で72チーム)。厳しい参加ルールのもと、3～5月までの毎週日曜日、奥武山野球場・瀬長島球場を会場に午前6時(3月は6時半)プレーボールで開催。